

「とっとり評判記」

第4話

なんでも

赤松八幡宮～忘れられた鳥取の地霊～



やまびこ博士

こだまちゃん



『鳥府志』(鳥取県立公文書館所蔵)



赤松広通

こだまちゃん：なんだか、少し気味が悪いわね。

やまびこ博士：ここは、昭和27年の鳥取大火によって焼けてしまった「愛宕神社」の跡地だよ。今は鳥居も壊れて、石段と建物の基礎だけが残されているんだ。

こだまちゃん：今日はどうしてここに来たの？

やまびこ博士：それはね……。 (なにやら呪文を唱える。地面から白煙とともに、髪を振り乱し刀を抜いた武将が姿を現す。)

こだまちゃん：きゃー、おばけー！

やまびこ博士：この人は、名を赤松広通(広英ともいう)といい、今から400年ほど前の慶長5年(1600年)に、鳥取で亡くなった武将だよ。

こだまちゃん：なんだかすごく怖そうな人ね。

赤松広通：私は、室町時代以前からの名門・赤松氏の一族だ。豊臣秀吉公の時代には、隣の但馬国(兵庫県北部)の竹田城をあずかっていた。

こだまちゃん：その人がどうしてこんな怖い姿をしているの？

赤松広通：かえすがえすも、恨めしきは亀井茲矩殿。この恨み、はらさでおくべきか……。

こだまちゃん：きゃあ、やっぱりこわい！

やまびこ博士：豊臣秀吉の死後、「天下分け目の戦い」関ヶ原の役がおこり、徳川家康が勝利した。その後、家康が豊臣家を滅ぼして江戸幕府を開いたことは知っているね？

こだまちゃん：そういえばテレビでみたことがあるわ。

やまびこ博士：あまり知られていないけれど、この戦いは鳥取にも飛び火しているんだよ。鳥取に領地をもっていた武将の多くは、負けた豊臣方(西軍)についたために処罰されたが、残された家臣たちはそれぞれの城にたてこ

もって抵抗した。ひとり徳川方(東軍)についていた亀井茲矩は、それをなんとか平定しなければならなかったんだ。

こだまちゃん：戦いは関ヶ原だけで終わりではなかったのね。

やまびこ博士：なかでも、鳥取城主・宮部長照氏の家臣は強く抵抗し、決して降伏しようとはしなかったのじゃ。

赤松広通：それで亀井殿は、但馬国の有力者である私に助けを求めた。西軍の一員だった私は、家康公にとりなしてくるという言葉信じて、亀井殿に協力した。

こだまちゃん：それで、うまく鳥取を平定したの？

やまびこ博士：亀井・赤松の連合軍は鳥取の城下を焼き打ちするなど激しく責めたてたが、鳥取城を攻め落とす事ができなかった。平和を望む徳川家康は、亀井が敵方だった赤松と手を結び、鳥取城下を焼き打ちしたことを怒って責めた。

赤松広通：亀井殿は、焼き打ち私の軍勢が勝手にやったことであると言い訳けたのだ。そのため私は家康公に死を命じられ鳥取で自殺することになってしまった！

こだまちゃん：かわいそうね。利用されて、最後は殺されてしまうなんて。

やまびこ博士：その後、赤松広通の墓の近くを通る人がたびたび不思議な体験をするようになり、人々は無念の死を遂げた赤松の祟りだと恐れた。そこで、鳥取藩主となった池田家は、赤松八幡宮をつくって祟りをしずめようとしたんだ。

こだまちゃん：へ～、そうなの。

やまびこ博士：強い恨みをもって死んだ人ほど、お祀りしてあげることで力の強い神様になるという考え方があったからだよ。赤松八幡宮はその後、愛宕神社の境内に移され、数十年前まで残っていたんだ。

赤松広通：そうして神となった私は、神社のなくなった今も、鳥取の人々を見守っているのだ。

こだまちゃん：ここがその赤松八幡宮の跡地なのね。わたしもお花をあげておこう。



赤松八幡宮の跡地(愛宕神社に合祀されていた時の位置/鳥取市湯所)

【佐々木孝文(鳥取市歴史博物館学芸員)】